

2016 年度 センター試験 英語 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 80 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：55 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	● あり	○ なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

出題分野(ジャンル)としては、第 5 問が、昨年度の E メールのやり取りから今年度は物語文に変わったが、英文自体は平易であった。

配点については、例年通り、語彙問題と読解問題の比重が非常に高く(158 点 / 200 点)、語彙力や素早い処理能力が必要とされた。

難易度については、第 3 問にやや難しい問題が見られたものの、第 5 問がやや平易であること、加えて第 6 問が平易であることを考慮し、全体として「やや易化」とした。今年度から新課程下での試験となっているが、課程が変わったことが英語の出題に大きな変化をもたらしたとは言えないだろう。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	発音・アクセント	14 点	昨年と同様、発音問題が 3 問、アクセント問題が 4 問という出題である。音節が少なく、基本的な意味の語の出題が多かったため、難易度的には易くなったと言える。
第 2 問	文法・語法・会話	44 点	A が空所補充(四択)問題、B が語句整序問題、C が応答文の完成問題という昨年と同じ出題であった。昨年出題された、会話の空所に入る文の組み合わせを選ぶ問題が今年度も出題された。
第 3 問	会話・文脈把握 語数 A. 79 語 B. 363 語 C. 476 語	41 点	A が対話文の空所補充問題、B が不要文指摘問題、C が意見の要約(ディスカッション)問題という昨年と同じ出題であった。時間的な制約が大きい点を考慮すると、B と C の一部にやや難易度の高い問題があった。
第 4 問	資料読解 語数 A. 459 語 B. 109 語	35 点	昨年までと同様、情報の読み取りが出題され、設問形式、問題難易度共に大きな変化は見られなかったが、A の問題は昨年度に比べて出題語数が増加した。
第 5 問	長文読解 語数 695 語	30 点	第 5 問は、出題される英文のジャンルがここ数年間一定していない。今年度は物語文による出題となったが、英文を構成する単語や文法構造は平易なものばかりなので、解答に苦勞することはなかったであろう。
第 6 問	長文読解 語数 542 語	36 点	「オペラ」を扱った文章で、語数は昨年度より 100 語も少なくなっている。英文・設問共に読み易く、解き易いものとなっている。